

平成二十六年 未さん申さん達の田作り

～ 第五期 あすみっ子田んぼ ～

今年で、あすみっ子田んぼは5年目。今年の5年生は5期生となります。例年通り、田植え指導の金谷さんから、「田んぼに人間が入り、お米を育てることは、田んぼの中にいる微生物やプランクトン、オタマジャクシ、植物などの無数の命を犠牲にしていることを憶えてほしい…」とお話がありました。そのあと、田んぼへの入り方、歩き方、田植えの手順など教えてもらいました。子どもたちは、はだして田んぼに入り、土の感触を楽しみながら、小さな苗を1本ずつ、根を傷つけないよう、取り分け植えていきました。

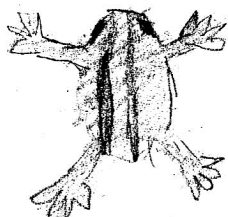
田植え時期に見られる生き物観察もしました。田んぼに網を入れ、オタマジャクシ、ヤゴ、ホトケドジョウなどをすくってはおおはしゃぎ。ただ、初めて小さな生き物と触れ合ったのか、小さな赤ちゃんサワガニを手のひらに乗せようとすると、指でつまもうとしたり、たくさんのオタマジャクシをすくおうと、網で田んぼをかき混ぜてしまったり…小さな生き物に配慮しながら、自然観察してもらえよう、金谷さんのように、お話ししていきたいと思います。

あすみっ子たちの初めての田植え&谷津田の自然観察の感想です。

☆ぼくは、田植えは初めてでした。田んぼをたかやさないで、去年のあまった稲ほの種でなえを作ってそれを植えて育てることを自然農ということがわかりました。田んぼで一歩歩くと、100万ほどの命がぎせいになって、その死がい稲について、稲が育つ。それをぼくたちが食べてぼくたちが生きることがわかりました。米ができるまでの農家の人たちの苦勞がよくわかりました。(S.S)

☆田植えの時の土は、あすみ小のグラウンドの土とは全くちがってやわらかく、とてもドロドロしていました。なえの根っこを引っばる時、切れそうで面白かったです。ひざあたりまで土でうもれていて、足がきたなくなっただけ、その分お米がおいしく育つようになってほしいです。私達

があたりまえのように食べているお米があんなに大ぜいの方達で作っていることは、すごくびっくりしました。小さいころはそんなこと気にせずに残したりしている自分が、少し情けなく感じました。これからは、1つ1つに感しゃをこめて、残さずにきれいに食べたいです。これからのお米の成長が楽しみです。(N.O)



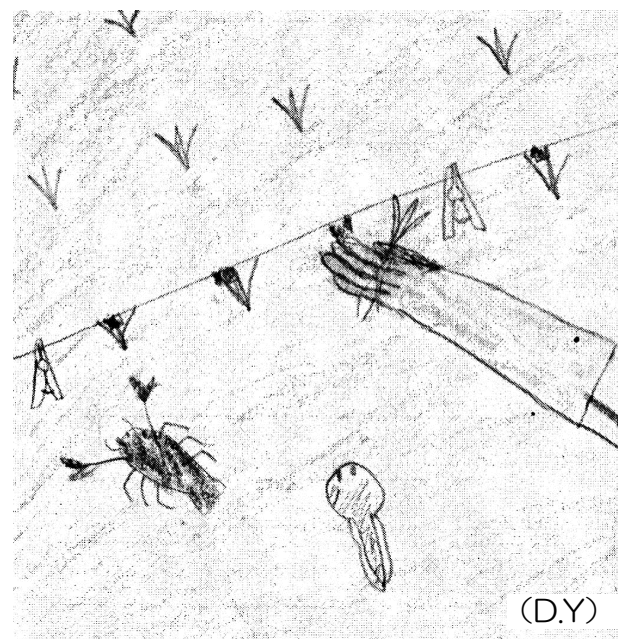
(カエル、T.A)

☆田植えする前、入る時にぐにゃぐにゃと音がしてびっくりしました。そして、根をきらないようになえをそっととりました。そして植えました。するとクモが近づいてきました。またオタマジャクシが前にいました。おわるとコンクリートがやたらとかたくかんじました。(M.N)

☆私は今日の田植えのとき、金谷さんが話してくださったことは、これからの生活で、お米を食べるとき、毎回毎回ちゃんと思い出していきたいと思います。私たちが1歩歩くとどれだけの命がなくなるか、教えてくださいました。でも、私たちが今日植えた、なえの栄養となって、いずれ私たちの体の1部になると言っていたのが、すごく感動しました。なので今日の田植えはすごくやるのにきんちょうしました。



(A.O)



(D.Y)

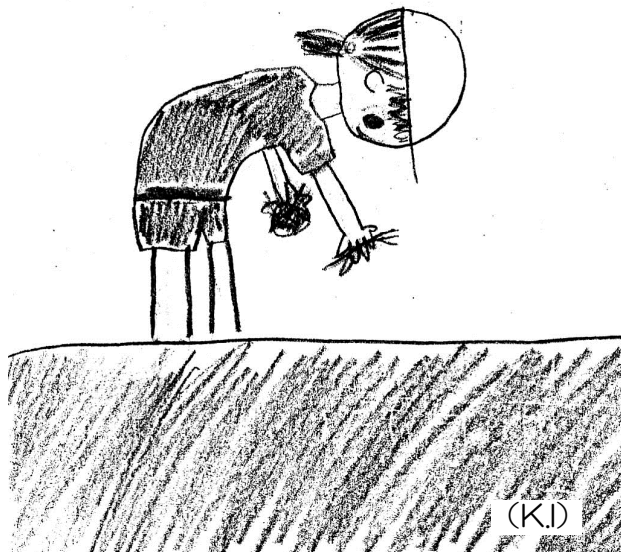
でも、死んでしまった「び生物」もむだになってほしくないと思います。今日植えたあの「なえ」が育って食べるまでがとても楽しみです。(AO)

☆ぼくは、五月二十三日に田植えをしました。ぼくは、田植えをするところの所にはいりました。そこは虫もいっぱいいるしねちょねちょして入りたくなかったけど、入って見ると虫はいるけどぜんぜんやではなかったです。でなえを植えるときのもちかたをおしえてくれました。それをやったらまあまあうまく出来ました。次やる時はもっとうまくめれるようにがんばります。(M.I)

☆わたしは今日田うえをしました。初めてやるのでたのしみでした。田んぼにはいるとき、土がやわらかくてきもちかったです。土はすこしぬるかったです。田んぼには、ザリガニやおたまじゃくしがいました。たまに土の中に足がはまりそうになりました。いねをうえる時すこししかできなかったのもうすこしやりたいなと思いました。田うえをするのが楽しかったです。またいつか田うえをしたいです。(M.Y)



(ホトケドジョウ、M.I)



(K.I)

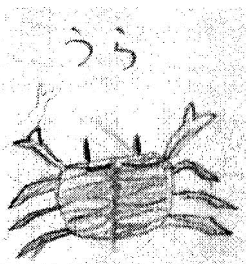
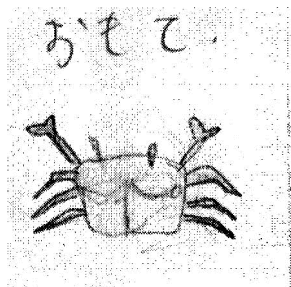
☆今日ぼくは、人生初の田植えをしました。田んぼの中には、まだ小さいカエルや、ザリガニなどがいました。田んぼの近くにも、シオカラトンボや、カナヘビがいました。田んぼの水は、思ったよりも、温かかったです。田んぼの近くには、わき水が出ていました。わき水と田んぼの水では、わき水のほうがすごく冷たかったです。あすみ田んぼは、谷津という谷の底にあってとても自然がゆたかな所だなと思いました。また次に来る時がとても楽しみです。(D.Y)

☆私は田植えをして、色々な事を学びました。1つ目は、お米にも大切な命があると話がありました。私は人間もお米も同じなんだなと思いました。2つ目は自然観察の事です。カニやカエル、おたまじゃくしがいました。とても楽しく、自然とふれあえてよかったです。私は初めて田植えをしました。あと、最初の話の時に一番心に残ったのは、「米作りは、遊びでも、体験でもありません。仕事です。」と言ってくれた事です。今日、半日でお米の大切さがわかりました。これからがんばりたいです。(K.I)



(タケカレハの毛虫、S.S)

☆ぼくは、田植えをして、たくさんのことを学びました。一つ目は、ぼくの体の中にもたくさんのび生物がいて、お米にも、たくさんのび生物がいて、みんないっしょだとい



(サワガニ、M.Y)

うことです。二つ目は、ぼくが一歩あるけば、たくさんのび生物たちが死んでしまうこともあるということです。ぼくは、田植えをして、お米のたいせつさなどを学ぶことができました。これからも、がんばっておいしいお米ができるようにしたいです。(T.A)



(M.N)

(大椎小学校の田植えの報告は次号掲載予定です)



里山たんけんレポート

第 172 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2014 年 5 月 4 日（日）晴れ

林内はツタウルシがたくさん生えています。毒性が強いといわれるツタウルシを覚えることからスタートしました。その林内はハナカタが葉の上に花を咲かせていました。次はホタルカズラの群落、丁度満開でこんなにたくさん見たことがない！きれい！と歓声が上がり、今日の被写体ナンバーワンになっていました。水路の周辺はニホンカワトンボがひらひら飛ぶ姿がたくさん見られました。小さいこどもでも捕まえらるので大喜びでした。田んぼではきれいに色づいたホソミオツネトンボも捕まえていました。メダカは大きな群れを作って「メダカの学校」そのもの隊列を作って泳いでいました。ニホンアカガエルのオタマジャクシは手足が出て尾を引きずりながらピョンピョン跳ねているものもありました。ところどころ、シュレーゲルアオガエルの卵塊が浮き上がっていて、畔の中に埋め込んでやりました。水生昆虫大好き少年はメメゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、コシマゲンゴロウを捕まえてご機嫌でした。シュレーゲルアオガエルの大合唱とウグイスの囀り、新緑の薫風を受けながらの観察会でした。

（参加者 大人 13 名、高校生 6 名、こども 3 名； 報告・写真：網代春男）

第 159 回 下大和田 YPP「苗代つくりと種蒔き」

2014 年 4 月 5 日（土）晴れ

初めて谷津へ来られた方、米作り講座の方々には谷津をひと巡りして谷津ってどんなところかを見ていただきました。まずは種蒔を蒔く苗床を作ります。ここで初めて田んぼの中に入ります。田んぼに長靴をとられたり、足が抜けなかったり、なれない作業に難儀しながら周辺の田の土を集めて 1m 幅の細長い苗床を作りました。平らにならして午前中の作業は終了です。昼休みに林の中ではリスが木々を渡って行くのが見られ、居合わせた人達は大喜びしました。ここでは初めての出現です。こども達も田んぼに大分慣れました。午後はいよいよ種蒔きです。7 日ばかり水に浸して持参した籾を苗床にパラパラ蒔いてその上を手の平でべたべた押さえました、このべたべたする時の感触が心地良く好評でした。苗床の上にトンネルを掛けて今日の作業は終了しました。

（参加者：大人 29 名、小中高生 15 名、幼児 2 名；報告：網代春男）

第 160 回 下大和田 YPP「田起こし」(兼、第 3 回米づくり講座)

2014 年 5 月 10 日（土）晴れ

緑の色濃くなる谷津に大勢の方が駆けつけてにぎやかな田起こしになりました。元気いっぱいの子もたちも加わって田んぼは人がいっぱい。コシヒカリを植える広い田んぼは午前中のうちに起こし終え、午後は少し狭いけど、草がびっしり生えていて大変な作業でしたが、心強い皆さんのパワーで草取り & 田起こしを終わらせることができました。お疲れさまでした。（参加者：大人 27 名、小学生 17 名、幼児 1 名；報告：高山邦明）

第 161 回 下大和田 YPP「田植え」(兼、第 4 回米づくり講座)

2014 年 5 月 17 日（土）晴れ

いよいよ田植えです。今年は苗の生長が順調で元気な稲が田植えにちょうど良い大きさに育っていました。ロープを張った間を一人ずつ受け持って後ろに下がりながら植えます。曲がらないように目安の棒と先に植えた列を見ながら慎重に…。それでも曲がっちゃうのはご愛敬。3 時までかけてコシヒカリと緑米をほとんど植え終えました。残った農林一号や古代米の黒米、赤米などは有志が後日植えてくださいました。今年は冷夏の予想もあるようですが、うまく育って欲しいです。

（参加者：大人 26 名、小学生 14 名、幼児 2 名；報告：高山邦明）



田植えを終えて（撮影：田中正彦）

第 108 回 小山町 YPP「こしひかりの田植え」

2014 年 5 月 24 日（土）晴れ

前日のあすみが丘小学校の田植えに参加した小学生が大勢参加してくれ、子どもたちの元気な声が谷津に響き渡る久しぶりににぎやかな田んぼの作業になりました。今回はこしひかりの田植えですが、草がたくさん生えてしまっていたので、最初に変な草取り。でも子どもたちが張り切って泥の中に入って抜いてくれたおかげでどんどんきれいになりました。田植えは張ったロープに沿って一列に並んで植えました。みんなががんばってくれたお陰で、こしひかりの田植えはもう少し。例年になく今年は田植えが早く進んでいます。みなさん、ご協力ありがとうございました。

（参加者：大人 13 名、小中学生 12 名、幼児 2 名；報告：高山邦明、写真：大谷祥）



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 5月6日 林の中からモズのヒナらしい声が聞こえてきた(高山)。
5月23日 田んぼに多数のオオイトトンボが飛ぶ(高山)。
5月24日 斜面林でウノハナが咲き始める(高山)。
5月25日 田んぼにカワセミがダイビング、アジアイトトンボを見かける、ホソミオツネイトンボは連結して植えたばかりの稲に産卵(高山)。
5月31日 斜面林でホタルブクロが咲いていた(高山)。

下大和田

- 5月11日 里山くらぶの日、葦原からオオヨシキリのギョギョシ、ギョギョシの音が響いていた。今シーズン初(網代)。
5月19日 ホトトギス初鳴き、以後下大和田の谷津に行くたびにホトトギスの鳴き声を聞く(網代)。
5月25日 ツバメ3羽が田んぼの土を取りに来ていた。巢の補修のため?あるいは新しい巣づくり?(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ?と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任をお願いします。

▼第162回下大和田 YPP「田の草取り」(兼、第5回米づくり講座)

植えた稲に負けまいと田んぼでぐんぐん生長する草を抜いて、稲の生育を助けてあげます。

日時: 2014年6月14日(土) 10~14時 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください)

また、ご連絡いただければ地図をお送りします。

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴(田んぼが深いので長めがいい)、帽子、軍手、敷物。

参加費: ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第174回下大和田7月の谷津田観察会とごみ拾い

赤とんぼの仲間が発生して種類も多く賑やかになる頃です。ウグイス、ホオジロ、ホトトギスの囀りを聞きながら谷津を巡ります。

日時: 2014年7月6日(日) 10~12時 ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(下大和田 YPPに同じ)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時: 2014年6月8日(日)、6月20日(金) いずれも10:00~15:00

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上) 持ち物: 飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催: ちば環境情報センター

▼第109・110回 小山町 YPP「古代米の田植え」

古代米の黒米、赤米、緑米の田植えをします。

日時: 2014年6月8日(日)・6月15日(日) いずれも10:00~12:30、小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴(田んぼが深いので長めがいい)、帽子、軍手、敷物。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 南国から渡ってきたホトトギスの鳴き渡る声が聞こえるようになりました。この季節ならではの特徴あるさえずりは昔の人も注目していたようで、日本野鳥の会の会誌「野鳥」6月号に掲載された高橋千劔破さんのコラムによると、万葉集で詠まれている野鳥のうち、ホトトギスがダントツの一番で、2位、3位の雁(かり)やウグイスの2倍以上の句数になるそうです。昼間だけでなく夜まで鳴き続けるホトトギスにはやはり神秘性があり、様々なストーリーが思いつくのですね。(高山 邦明)